

遊美

- 1 川崎 ひろ子さんの作品と作品についての言葉
- 2 作家探訪 磯田 理絵先生
- 3 美術鑑賞旅行
- 4 美に遊ぶ
- 5 絵画教室
学芸員による鑑賞講座
- 6 2023年度役員・委員及び法人・特別会員の紹介
2023年度海外美術鑑賞旅行について
あとがき



川崎 ひろ子

「気のむくま」

2013年
ボールペン/ケント紙
51.5×36.5cm

2013年の頃に描いたもので「気のむくま」です。

このような絵は、病院の待ち時間に描き出したのが始まりです。普通のボールペン1本で、ケント紙に下描きもせず、ただ、手が動くままに何も考えずに描いています。時には線が乱れても、それはそれで新しいひらめきで、手を休めることなくどんどん描き進めます。

私は物心付いた頃からいつも絵を描いていました。初めはクレヨン、水彩、高校で初めて油絵を、大子町にお住まいの武石綱江先生のご指導を受けました。

社会人になってからは、会社の美術部で、社内外のグループ展等に参加していました。

私は、先生方のご指導は受けず、受けたいとも思いましたが、他にやりたいことがたくさんあり、絵にとらわれたくありませんでした。ずっと風景の油絵でしたが、四十代前頃から水彩で草花を描くようになり、今はほとんど植物画になっています。これからもずっと描き続けていくつもりです。

(ひたちなか市在住)



日本画家
鎌田 理絵 先生を訪ねて

花と向き合い 花に学ぶ

150号の画面一面に描かれたカラスウリとクラク。花弁の先がレースを纏ったようなカラスウリ、触手が揺らめく透明なクラク。まるで宇宙空間を漂っているような不思議な感覚に襲われる。先生は同じ命を持つものたちの命の輝きや歎びを描きかけたとおっしゃる。モノクロの画面からは能の世界のような幽玄さが滲む。このような作品を描く日本画の世界を築くまでにどのような道筋を辿られたのか、興味深くお話を伺った。

日本画への道

子供のころ、絵を描くことは日常の遊びと同じだった。お父様が洋画家の鎌田道夫先生ということもあり、いつも絵が傍にあった。音楽にも興味があって、中・高校は吹奏楽部に所属。高校では選択教科で美術を選び、担当の能島征二先生から水彩や油彩を学んだ。その時一緒だった親友に「今の時間楽しそうだったね」と言われ、「そういう自分は絵を描くことが好きだったんだ」と改めて気づき、大学への進路を美術科に決めた。

その頃に家族旅行で訪れた成川美術館で、岡崎忠雄先生の展覧会を見たことが花鳥画との初めての出会いとなり、のちの日本画への道に影響を与えた。

大学の絵画ゼミでは主に油彩が中心で、自分には性に合わないと感じていた。

制作が思うようにいかず悩んでいた時、お父様に貰った日本画の絵具で傍らの花を描いてみた瞬間、絵具が和紙にすっと馴染み、広がっていく感覚に感動し、庭の花を片っ端から描いていった。大学の非常勤講師を勤めておられた、のちの師である小林恒岳先生に日本画を学び、卒業後も15年以上にわたり師事した。今でもその教えは制作の土台となっている。日本画の絵具で花を描く魅力に取りつかれ、時には花を描くことを師に止められたこともあったが、一貫してその姿勢を変えることはできなかった。

2008年に国民文化祭で文部科学大臣賞を受賞したことがきっかけとなり、様々な作品を見ることや学芸員の方と話す機会が増え、花を描くことに対する考え方や思いも変わっていった。そして、現在の作品へと繋がっていく。

花への思い

「美しさの中にあるしたたかさ、生きる強さ等内面まで描きたい」とおっしゃる先生の強い思いは、個展開催の案内状にある次のメッセージにも伺える。(自分にとっても「花」とは何なのか…自分自身に問いかける機会にできればと思っております。2023/6)

実物を多方面から何枚も写生し、花の本質が出るよう組み合わせ



「牡丹」
2021年、紙本彩色/F6号(31.8×41.0cm)

作品にする。夏は強い日差しと虫との戦いだとも。花を描くことで花から学びたいとひたむきに花に向き合っておられる先生の姿が浮かんでくる。

白・モノトーンにこだわる

先生は、特に胡粉の白が好き。胡粉は溶き方・塗り方によって繊細にも力強くも表情が変わり、表現の幅が広がるのだと。花を美しく見せるための仄かな翳りを加えて。葉も敢えて緑にはせず、それでいて見る人が緑を感じるように。

これから

ゆくゆくは桜や牡丹の大作など伝統的な日本画の題材にも自分なりの表現で挑戦してみたい。いくつもの絵画教室で、いろいろな題材を描く会員を指導することは自分の勉強になるとおっしゃる。体調管理のためにヨガとフラダンスもなさっているとか。今後も幅広いしなやかなスタンスで独特な世界を創造していけるのだろう。



「浮遊」
2020年、紙本彩色/P150号(227.3×162.0cm)
改題 新 第7回日展



「百合花」
2022年、紙本彩色/M20号(72.7×50.0cm)

鎌田 理絵 (かまたりえ)

理絵

ひたらな小市出身 茨城大学教育学部美術科卒
1999 年43回新美術展入選
2008 年33回国民文化祭いばらき2008美術展文部科学大臣賞
2009 茨城県美術展覧会会員誌賞

2010 第60回新美術展記念賞

2013 第45回日展初入選

2017 第1回新日展展覧会入選、茨城県芸術祭美術展覧会茨城新聞社賞

2018 茨城県美術展覧会会員誌賞

2023 新日展会友誌賞

ひたらな小市在住

新日展会友会

茨城県美術展覧会会員

2023年6月2日、会員42名が東京ステーションギャラリーで「大阪の日本画」展を、国立新美術館で「ルーヴル美術館展 愛を描く」を鑑賞しました。

浪速の近代日本画とルーヴルの愛

伊藤 陽子



長い長いコロナ禍のトンネルを抜け、やっと明るいきざしが見えてきた2023年6月、「茨城県近代美術館友の会美術鑑賞旅行」が再開。当日はあいにく台風2号と梅雨前線の影響で朝から風雨強し!! その様な状況もナンソソ車内は久しぶりのお仲間とお話に花が咲いていました。

1ヶ所目は東京ステーションギャラリーでの『大阪の日本画展』東京や京都画壇よりも、なじみが薄い近代大阪の日本画が勢ぞろいの史上初展覧会という事で、作家の名前も私には初めての方ばかりでした。



鳥 成道「祭りのよそおい」1913年 / 絹本着色 / 142.0×284.0cm / 大阪中之島美術館蔵
画像提供: 大阪中之島美術館 / DNPPartcom



北野恒富「宝恵籠」/ 1931年頃 / 絹本着色 額装 / 62.0×74.0cm
大阪府立中之島図書館蔵

個性的な美人画が多い中、北野恒富《宝恵籠》は上村松園さんを彷彿とさせる上品な作品でした。それと鳥成園《祭りのよそおい》は、中央から左側の3人と右端の1人の女の子の対比がおもしろい作品だと思いました。左3人の女の子達は何不自由の無い暮らし振りや何え、右の女の子は仲間に入りたけれど入れない寂しげな表情が後姿からも感じられます。つい後ろから応援したくなる様な絵でした。

そしてお楽しみの昼食は、築地本願寺の日本料理一茶水一でゆったり、のんびり、堪能しました。

その後、六本木国立新美術館で『ルーヴル美術館～愛を描く』の鑑賞に。古代神話を基にした多種多様な愛の形の表現。家族愛、夫婦愛、親子愛、恋人どうしの愛、欲望の愛。そのなかでもドメニコ・マリア・ヴィアーニの《放蕩息子の帰宅》。悪事をくりかえしていた息子が改心して帰ってきた、その全てを受け入れ、深くやさしい眼差しで見つめる父親の表情が印象的でした。愛を持って地球上から争いが無くなる事を祈りつつ充実した時を過ごしました。

大阪とルーヴル、素晴らしい作品との出会いを作ってくださった友の会企画委員の皆様にご感謝致します。ありがとうございました。次の企画にも期待しております。

(ひたちなか市在住)



国立新美術館「ルーヴル美術館～愛を描く」鑑賞(2023年6月2日)

美に遊ぶ

美術工芸の中に、 伝統文化財を取り入れて



中村 のりこ

今から15年程前、茨城県立歴史館で開催された特別展「親鸞」で、私はある仏像に魅了されました。水戸市善重寺様ご所蔵の国重要文化財「聖徳太子立像」。国内では類を見ない見事な衣の装飾文様に包まれたその荘厳で凛とした佇まい。水戸市西門町の高台より市内の街並みを静謐に見守る像です。その思いの丈を私なりに日本画で一気に仕上げた作品「聖徳太子立像」は、故郷の文化財を絵画で表現し始めた大切な1枚でした。その後、美術史家の後藤道雄先生のご配慮により、お陰様で善重寺様へ寄贈させていただく事ができ、これに続き、小山映一先生のお心遣いにより城里町の寶隆院様へも町指定文化財「大日如来坐像」を描いた日本画をお納めする事ができました。

これらの節目から仏画描写を始めとする文化財を通しての、(私の独りよがり?) 芸術による地域振興活動が始まりました。昨年は、



「聖徳太子立像」/2011年
岩絵の具・西ノ内和紙/130.3×80.3cm

一橋徳川家の能面と唐織をモチーフに、能の演目「葵上」を想定した日本画を制作いたしました。歴史的流れの中で、普遍的な人の情を表現した作品は批判もありましたが、モチーフを写し取り、美しく表現するのみならず、ドラマティックに描くという自身の中で新しい境地を文化財と向き合う中で会得したようにも感じました。

これらと並行して、今取り組んでいるのが「那珂湊張り子」の復刻です。2009年に開催された茨城県立歴史館での特別展「めでたづくし」にて紹介された「茨城那珂湊達磨」が、その出会いでした。私の住まいのあるひたちなか市で、市無形文化財に指定された達磨の生産がされていたのは興味津々の出来事でもありました。

ところが、2011年に発生した東日本大震災により、木型が損壊してしまうという事態を招きました。達磨は木型を作り直し生産されておりますが、干支張り子はその後十年來復刻されないままで、郷里の文化財が風前の灯で消え失せる



「葵上」一橋徳川家の能より/2022年
岩絵の具・土佐麻紙/116.7×80.3cm

のは忍び難く、制作者の飯田様にご承諾をいただき、自身での制作活動を始めました。お陰様で、昨年その張り子が「いばらきデザインセレクション2022」の選定を受け、現在、茨城県近代美術館ショップにおいては通年、茨城県つくば美術館、茨城県立歴史館ショップにおいては、年末年始の期間限定で取り扱っていただいています。

また茨城県近代美術館友会の会様には、私がデザインし応募した“友の会マーク”を採用していただきました。A (art) F (riend) というロゴを人にも見えて、Artで集い親交を深める友の会への思いをこめたデザインになっています。

地域の伝統的な文化財を通してのささやかな芸術活動ですが、これからも多少なりともお役にたてるような日々を送れたら幸いです。(ひたちなか市在住)



茨城県近代美術館

茨城県近代美術館友会の会マーク/2017年



那珂湊張り子(虎・兎)/2022年
木型(オリジナル)西ノ内和紙・顔料・膠
虎 H7.5×W12×D4cm
兎 H6×W10×D5cm

絵画教室 講習会に参加して

2023年7月27日、8月3日、6日、10日

高野 明美

今回は、講師清水優先生の人物画講習会でした。画材は自由ということで、水彩画に取り組みました。モデルさんも絵を描かれると伺い、どんな絵を描か

れるんだろうと想像しながら、画面と向き合いました。頭と体、組んでいる足に置いている手、見てはいるけれど思うように描けず、それでも何とか下絵となりました。色を重ねていくにつれ、洋服のしわや柄をどこまで描き入れ、省略したらよいか、手の大きさなど、先生のアドバイスをいただいで、立ち止まり、見直しながら進めました。

講評では、さまざまな画材で制作した作品があり刺激をもらいました。

私にとって学びのある貴重な経験となりました。このような機会がありましたら、また参加したいと思っています。
(石岡市在住)



筆者の作品 水彩 F20号



絵画講習会風景 (2023年7月27日撮影) 美術館講座室

学芸員による鑑賞講座

2023年8月16日

講演題目 天心と画家たちのアジア
講師 学芸員 木澤沙羅氏
場所 茨城県近代美術館 地階会議室

友の会の企画も少しずつ解禁となり、今回は学芸員による鑑賞講座が開催された。講師の木澤沙羅氏は遊美103号「学芸員に聞く」で紹介されている。「天心と画家たちのアジア」を企画担当し鑑賞ガイドブックの執筆構成も担われた。岡倉天心の英文著作「東洋の理想」出版から120年。優れた日本の文化や

芸術を発信した天心の思想を受け継いだ大観やアジアを旅した画家達の作品をはじめ、20点ほどの作品について丁寧な解説を聴くことができた。この企画展には茨城県近代美術館の所蔵作品も多数展示されている。これまで幾度も鑑賞してきたはずの作品、解説を聴いてから天心美術館で改めて向きあうと、新たな感動を得ることが出来る。このような機会にさらに多くの会員の皆さまが参加し、美術館を楽しんで頂けたらと思う。



講師の木澤沙羅学芸員



木澤氏執筆の鑑賞ガイドブック



会場風景

2023年度役員・委員及び法人・特別会員の紹介

5月13日の代議員会で承認されました本年度役員・委員を掲載します。また、法人・特別会員で掲載許可をいただきました会員名簿を掲載します。

2023年度役員・委員の紹介

役職	氏名
顧問	鈴木 賢志男
会長	中川 純一
副会長	滝田 賢三 田山 興誠
事務局長	沼田 祐一郎
監事	小林 正和 坂場 英利
理事	青木 正雄 阿部 真也 石井 孝 奥村 雅子
	木村 利 車 孝則 小松 満 鈴木 尚
	高原 裕 内藤 学 長岡 修平 長嶺 家光
	中村 昭彦 沼田 祐一郎 藤田 卓也 横須賀 正留
	荒川 眞理子 川村 良 菊地 清浩 五嶋 英門
代議員	齋藤 奎二 佐伯 佳子 砂押 善美江 富永 薫
	根岸 正美 灰原 啓子 牧 幸代 松本 寛子
	宮田 幸江 柳生 順子 山田 一二 山本 美喜男
企画委員会 委員長	滝田 賢三
委員	川村 良 佐伯 佳子 鈴木 尚 富永 薫
	牧 幸代 宮田 幸江 根岸 正美
会報委員会 委員長	奥村 雅子
委員	荒川 眞理子 灰原 啓子 松本 寛子 柳生 順子
	山田 一二
PR委員会 委員長	沼田 祐一郎
委員	富永 薫 宮田 幸江 柳生 順子 山田 一二

2023年度法人・特別会員紹介(敬称略・順不同)

中川ヒューマン管工事業株式会社	神橋博爾有限公司
仁岸 忠幸	株式会社 光和印刷
和知商事株式会社	東神電池工業株式会社
日東電気株式会社	国際警備保障株式会社
大御寺内 務	茨城県信用組合
茨城県信用農業協同組合連合会	(株) 横須賀美達建築設計事務所
第一熱学建設株式会社	(株) 入江電機工務所
茨城グローバルシップ株式会社	(株) イチハラ商会
富山コンクリート工業(株)	株式会社 サザグヒー
日産部品茨城販売株式会社	美空堂マドンナ(有)
吉成 安史	(株) 栄達建築設計事務所
茨城トヨタ自動車株式会社	日車メンテナンス株式会社
JJA茨城県中央会	ペニヤ商事株式会社
(株) 吉田石油	昭和建設株式会社
東都針装株式会社	朝彩商事株式会社
(株) 常陽銀行	五浦日本美術院同会天心傳道顕彰会
学校法人 中川学園	水戸アクトビル販売株式会社
株式会社 白英社	戸田産業株式会社
茨城キリスト教学園	医療法人篤光会 小松整形外科医院
車 孝則	株式会社 ブックユース
株式会社 フジタビジネスマシンス	JA 水戸
(株) ヤマト建築設計事務所	(株) IHIS 大洗ホテル・思い出湯尾庵
株式会社 ジュエリー小林	(株) 五浦観光ホテル

注：掲載を了承された会員のみ掲載

2023年5月13日現在

2023年度海外美術鑑賞旅行について

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、コロナ禍以前のような経済活動を再開できる状況になりましたので、友の会でも中止していた海外美術鑑賞旅行を再開することいたしました。

今回は、「トルコ8日間の旅」を計画いたしました。トルコは4000年前のヒッタイト帝国の時代からアジアとヨーロッパの文化の交差点でした。ローマ時代からオスマン帝国時代に至る1500年以上の華麗な文化遺産は旅人を魅了し続けています。また、カッパドキアやバムツカレなどの自然造形も圧巻です。

9月末に予告のチラシをお送りいたしました。旅

行行会社(東武トップツアーズ)の募集案内書ができましたので、遊美104号等と一緒に送らせていただきます。

最少催行人数が25名となっておりますので、募集案内をご覧ください。多くの会員がご参加くださいますようお願いいたします。

友の会企画委員会



ブルーモスク(イスタンブール)

あとがき

異常気象による大雨や地震が度々起こり、さらに台風が大きな被害をもたらしています。

本県でも台風13号による被害が出ております。被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

コロナが明けてようやく日常を味わえるようになりました。友の会でも鑑賞旅行での東京行きが盛況でした。様々な分野が活気を呈してきました。どうか芸術をゆったり満喫できる秋が訪れますように、平穏日々

が過ごせますようにと祈念します。

本号では画像の掲載及びデータの貸与に関して、下記の各氏から許諾を頂きました。厚く御礼申し上げます。

○大阪府立中之島図書館蔵、北野恒富「富忠蔵」の絵画フィルムの複写及び掲載許可を大賀 浩一館長から、同館絵務課愛甲 祥文氏から絵画フィルムの貸与を賜りました。

○大阪中之島美術館蔵、高成園「祭りのよそおい」の掲載に関するご教示を同館山本 桃子氏から、三好 作子氏から著作権者の作品掲

載許諾を、DNPアートコミュニケーションズ イメージライセンズ 部 松橋 幸美氏から作品画像データの貸与を賜りました。

茨城県近代美術館 友の会会報

遊美 No.104

発行 2023(令和5)年11月
 編集・発行 茨城県近代美術館友の会
 〒310-0851
 水戸市千波町東久保 666-1
 TEL:029-243-5111
 E-mail: fmomaibk@gmail.com
 HP : https://fmoma.com/

印刷 株式会社 光和印刷